平成２３年度　函館市学習状況調査実施報告書

確かな一歩の証として

函館市教育委員会
函館市学力向上プロジェクト推進委員会

刊　行　に　寄　せ　て

新学習指導要領は平成２３年度の小学校に続き，平成２４年度には，中学校でも全面実施となり，言語を基盤として考える力を育むことや，我が国の伝統と文化を尊重する学習などが重視されております。

しかし，「人が人を育てていくこと」そして，「毎日，毎時間の積み重ねが大切であること」に変わりはなく，これまでと同様，子どもたちの教育は，先生方のお力に拠るところが大きいと感じております。

本市の各学校においては，先生方によって，学力向上に向けた取組が綿々と受け継がれ，そして一歩一歩改善が進んでおり，このたびの標準学力検査においては，これらの成果が見え始めたと言える結果となっております。

この成果を大きな励みとし，また，確かな一歩の証として，今後とも全市を挙げて子どもたちの学力の向上のために，さらに努力を重ねていく必要があると考えているところであります。

そうした中，本報告書は，数値化できるもの，数値化できないもの，双方に目を向けながら，子ども一人ひとりが確かな学力を身に付けることを目指して作成され，学校が取り組む方策について，お示したもので，各学校におきましては，本報告書を有効に活用し，学力向上の取組に生かしていただくことを期待しております。

終わりに，本報告書の発刊に当たって，市内各小・中学校及び「函館市学力向上プロジェクト推進委員会」の皆様には，多大なご協力をいただいたことに対しまして，心からお礼申し上げます。

平成２４年３月

函館市教育委員会教育長

山　本　真　也

生活習慣・学習習慣の形成

学力向上のためには，学びを支える好ましい生活習慣や子どもたちが学習に落ち着いて取り組める環境づくりが必要です。

学校組織・指導体制の改善

学力向上のためには，教職員の共通理解と学校の組織的・計画的な取組が必要です。

函館市の目指す子ども像

個性豊かに生きる子ども
優しさをもって生きる子ども
たくましく生きる子ども
函館に生きる子ども
共に未来を生きる子ども

望ましい学習態度の育成

学力向上のためには，学校・学級の集団づくりや学習意欲を高める取組，学習規律の徹底が必要です。

基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用

学力向上のためには，知識・理解と思考力・判断力・表現力などをバランスよく育てることが必要です。

「学力をはぐくむ４つ葉」

学力をはぐくむ４つ葉は，函館市教育委員会が，子どもたちの学力をはぐくむための４つの視点を示したものです。

それぞれの葉が，生き生きとした子どもたちを育てる要素となり，学力のさらなる向上につながると考えております。

これら４つの葉が大きく育つよう，教育委員会も「ひと」「もの」「こと」等様々な形で支援をしてまいります。

目　　次

巻頭言---------- 1
「学力をはぐくむ四つ葉」---------- 2

Ⅰ　基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用

1　ＣＲＴ結果から　----------
～問題レベルの分析～
（1）小学校国語 4
（2）中学校国語 6
（3）小学校算数 8
（4）中学校数学 10
（5）中学校外国語 12

2　改善のポイント　----------
（1）小学校国語 14
（2）中学校国語 16
（3）小学校算数 18
（4）中学校数学 20
（5）中学校外国語 22
（6）小学校外国語活動 23
（7）学力向上プロポーザル授業から 24

3　ＣＲＴ結果の詳細　----------
～観点別・領域別の分析～
（1）小学校国語 28
（2）中学校国語 30
（3）小学校算数 32
（4）中学校数学 34
（5）中学校外国語 36

4　学習意識調査結果の詳細　---------- 38

5　アドバイザーからの提言　---------- 44

Ⅱ　学校組織・指導体制の改善

1　研究モデル校の実践　----------

（1）函館市立磨光小学校（Ｈ２２～Ｈ２３） 46
（2）函館市立赤川中学校（Ｈ２２～Ｈ２３） 47
（3）函館市立鍛神小学校（Ｈ２３～） 48
（4）函館市立深堀中学校（Ｈ２３～） 49

原稿執筆・編集者一覧 50

Ⅰ　基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用

基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用

1　ＣＲＴ結果から　（1）「小学校国語」

ここでは，ＣＲＴの分析結果と児童の課題克服に向けた具体的な取組や指導について報告します。

Ｈ２２年度の実態と傾向
全国比－2ポイント以上の問題

○　文学的文章（読むこと）
　①登場人物像の把握
　②行動，会話からの心情理解
○　説明的文章（読むこと）
　③指示語の内容理解
　④要点の整理（段落の大体を読む）
○　作文（書くこと）
　⑤文末表現（敬体・常体，現在形，過去）
　⑥呼応表現（～たり，～たり）
　⑦文章構成（段落の意味）
○　言語事項
　⑧前学年の漢字の書き取り
　⑨接続語の役割
　⑩国語辞典，漢字辞典の活用
　⑪ローマ字表記（濁音，長音，促音）
※　長文読解（物語文・説明文）と言語事項に課題が見られます。上記の実態を踏まえ，ここでは，指導の工夫（日常・授業）や対策問題を挙げてみます。

分析の結果（できなかった原因）

○　1　→*文末表現を考える問題*
　①敬体，常体の使い分け→文末表現の違いを意識していない。
　②～たり，～たりの表現→「～たり　」の使い方を理解できていない。

○　2　→*接続語の理解の問題*
　①「接続語」の役割を理解していない。

○　3　→*漢字の送り仮名，書き*
　①前学年の漢字が定着していない。
　②送り仮名のつけ方が定着していない。

○　4　→*指示語の内容理解の問題*
　①「あそこ」が指す内容が把握できない。

こんな問題がやや苦手！

一　**文末表現を選択する問題**

□に入れる言葉として、正しいのはどれですか。

はさみで切ったり、のりを□。

ア　つけたりしました　　イ　つけた
ウ　つけられました　　エ　つけました

二　**接続詞の理解に関する問題**

次の文の□の中にあてはまるつなぎ言葉を、選びなさい。

昨日は雨がふっていた。□、今日は晴れている。

ア　また　　イ　しかし　　ウ　つまり　　エ　もし　　オ　だから

三　**漢字を正しく覚えて使う問題**

次の漢字の送り仮名を〈れい〉のように書きなさい。

〈れい〉おしえる→教える

①　しずかな

②　ととのえる

次の文の―の言葉を漢字で書きなさい。

①野球のれんしゅうをする。

②今日はこのようふくを着よう。

③遠足でゆうえんちに行く。

四　**文章の特徴に注意して読む問題**

―線は、どこをさしていますか。

「今度の冬休みは、北海道のおばあさんのところに行こう。あそこは、水族館もあるでしょ。」

ア　水族館
イ　今度の冬休み
ウ　北海道のおばあさんのところ

これだけは 目標

○平成２２年度ＣＲＴ結果の詳細はＰ２８
○改善のポイントはＰ１４

①日常の手立て（学校や家庭でできること）

○　低学年段階から身近な出来事を**日記に書く**活動を行い，「順序」や「段落」を意識付ける。（家庭学習）
○　**朝のスピーチ活動**を学校全体で取り組み，文末表現や話の組み立てにも目を向けさせる。
○　**前学年までの既習漢字**を，日常で活用する場を意図的に設定する。（宿題・短作文など）

毎日の積み重ねを大切にしましょう。

これだけは 重点

説明文の学習において，単元の中に左の事項を盛り込みましょう。

②問題を解くのに必要な基礎・基本の力
（授業の中で取り立てて指導する事項）

○　文末表現の仕方に気を配る力。
○「～たり→～たり」「まるで～ちがいない。」「きっと～だろう。」のような表現の呼応を理解する力。
○　文章全体のあらすじをとらえたり，段落の要点をとらえたりする力。（要旨，小見出し）

（**宿題**）
指示語や接続語，呼応の表現等は，プリント問題に整理して，**宿題として**取り組ませるのもよいですね。

③関連する単元（苦手克服へつながる単元）

○　３年下（ｐ７４学習のてびき）
「どちらが生たまごでしょう」
○　４年上（ｐ２４）
「二つのことがらをつなぐ」

※　段落を抜いた文章に入れ込む活動
○　説明的文章教材全般
「小見出し」や字数制限で要点を書き表す活動

④指導のポイント

○　**誤った表現を提示**し，望ましい表現方法について**学び合う機会**を意図的に設ける。
（**家庭学習の課題**として提示し**反復**する）
○「**要約の仕方**」「**小見出し**の作り方」の**ポイント**を身に付けさせる。
※　キーセンテンスにラインを引く
　　キーワードをつなぐ　等

⑤他教科との関連（要点を整理した「まとめ方」や「話し合い方」）

○　他教科における言語活動の際に，国語で身に付けた力が働くような場を設定する。
（例）社会科や総合的な学習の時間における，「新聞作り」や「発表会」
　　算数科における「考え方の交流」，学級会やグループでの「話合い」等

これだけはチャレンジ

ここでは，説明文を用いて，課題である「接続語」「段落相互の関係」「言語のきまり」「内容理解」に関する問題例を取り上げました。

一　池の水がどんどん少なくなり、「ふな」や「こい」などは、次々に死んでしまいます。□、めだかは、体が小さいので、わずかにのこされた水たまりでもだいじょうぶです。小さな水たまりでは、水温がどんどん上がりますが、めだかの体は、四十度近くまで水温が上がってもたえられるようにできています。

二　また、大雨になると、小川や池の水があふれ、めだかは大きな川におし流されてしまいます。大きな川から海に流されてしまうことがあります。ふつう、真水でくらす魚は□水では生きることができませんし、海に住む魚は、□水の中では死んでしまいます。

四　小川や池の中で泳いでいるめだかを見ると、ただ「おゆうぎ」をしているようにしか見えないかもしれません。しかし、めだかは、いろいろな方法でてきから身を守り、自然のきびしさにたえながら生きているのです。

問一　□にあてはまる言葉は、どれですか。
ア　だから　イ　そして
ウ　つまり　エ　でも

問二　次の文は、どのだん落の前に入れたらよいですか。

しかし、めだかは、真水に海水のまざる川口ふきんでも生きることができます。めだかの体は、海水にもたえられるようにできているのです。海に流されたり、めだかは、やがて、みちしおに乗って、川にもどってくることができます。

ア　一の前　イ　二の前
ウ　三の前　エ　四の前

問三　□にあてはまる、言葉を選びましょう。
ア　は　イ　が　ウ　も　エ　しか

問四　□アと□イに入る漢字の組み合わせでよいものを選びましょう。
①ア＝海　イ＝海
②ア＝真　イ＝海
③ア＝海　イ＝真

Ⅰ　基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用

基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用

1　ＣＲＴ結果から　（2）「中学校国語」

ここでは，ＣＲＴの分析結果と児童の課題克服に向けた具体的な取組や指導について報告します。

Ｈ２２年度の実態と傾向
全国比－2ポイント以上の問題

○ 書くこと
　① 伝えたいことを明確にして書くこと。（構成等を工夫して書く）
○ 読むこと
　② 文章の展開に即して読み取ること。（語の意味）
　③ 文章の展開に注意して読むこと。（古文の内容理解）
○ 言語事項
　④ 漢字の書き取り。

※　古文の内容理解や書くこと・言語事項では，前年度までと同様の課題が見られました。上記の実態を踏まえ，ここでは，指導の工夫（日常・授業）や対策問題を挙げてみます。

分析の結果（できなかった原因）

○ 1 → *語の意味を文章の展開に即して読み取る問題*
　① 似たような意味から，文に合う語の意味を選ぶことが難しい。
○ 2 → *漢字を正しく覚えて使う問題*
　① 小学校で習った漢字が定着していない。
　②「とめ」「はね」「おれ」が正確に書けていない。
○ 3 → *古文の特徴に注意して読み内容を理解する問題*
　① 現代の意味と異なる古語の意味が定着していない。
○ 4 → *伝えたいことを明確にして構成等を工夫して書く問題*
　① 読書感想文のよりよい書き方が理解できていない。

こんな問題がやや苦手！

一　語の意味を文章の展開に即して読み取る問題

「夜陰に**乗じて**活動する」の「乗じて」とはどのような意味ですか。最も適切なものを選びなさい。

ア　乗り込んで　　イ　機会を利用して
ウ　かくれて　　エ　かけ算をして

二　漢字を正しく覚えて使う問題

次の――線部を漢字に直しなさい。

1　新入生を**かんげい**する。
2　気候が**おだ**やかだ。
3　申し出を**こと**わる。

三　古文の特徴に注意して読み、内容を理解する問題

「あやしがりて寄りて見るに」の意味として、最も適切なものを選びなさい。

ア　疑わしく感じて押して見ると
イ　不思議に思って近寄って見ると
ウ　不審に思って押して見ると
エ　おかしいと感じて近寄って見ると

四　伝えたいことを明確にして構成等を工夫して書く問題

感想文を書き進めるに当たっての心構えとして、**正しくないもの**を次の中から一つ選びなさい。

ア　体験やできごとを正確に書く。
イ　読み手の興味をひく書き出しを工夫する。
ウ　常体（だ・である）と敬体（です・ます）を交ぜて使う。
エ　心を動かされたできごとを思い出して、短い文章にしてみる。

これだけは！国語編

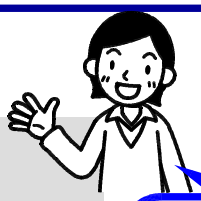
○平成２２年度ＣＲＴ結果の詳細はＰ３０
○改善のポイントはＰ１６

①日常の手立て（学校や家庭でできること）

○ 辞書で意味や用例を確認させる。
○ 場面による語の意味の差異に注目させる機会を授業場面で設ける。
○ 宿題や朝自習で小学校の漢字に取り組む。
○ 誤答の多い漢字を取り上げ，正確な漢字指導を行う。
○ 漢字や語句を使って短文をつくり，作った短文が適切であるか検討する。
○ 並行読書等を生かし，教科書以外の簡単な古文に触れる機会を設ける。

毎日の積み重ねを大切にしていきましょう。

これだけは！授業編



古典では，音読を繰り返し指導して，古文独特のリズムに触れさせ，親しませましょう。

②問題を解くのに必要な基礎・基本の力（授業の中で取り立てて指導する事項）

○ 文脈に即して語の意味を理解する力。
○ 古典に親しみ，文語のきまりや古語を理解する力。
○ 様々な文章の特徴を理解して書く力。

（宿題）
漢字練習や語句の意味調べは，生徒が宿題として取り組みやすい内容です。新出漢字や小学校で習った漢字も復習できるように取り組ませるのもよい方法ですね。

③関連する単元（苦手克服へつながる単元）

○【古典】物語の味わい
（竹取物語）
○【書く】感想を明確に
○【文章名人】書くプロセス１～

④指導のポイント

○ 新出漢字や注意する語句を用いて短文を作り，適切かどうか確認する。
○ 古語のフラッシュカードを用いて，言葉と意味を確認する。
○ 短い文を書く機会を設けて，紹介したり，交流したりする。

⑤他教科との関連

○ 他教科における言語活動の際に，国語で身に付けた力が働くような場を設定する。
（例）・社会科や理科，総合的な学習の時間における「レポート作成」や「発表会」
・音楽や美術の鑑賞の中で，根拠をもって批評し合う学習活動
・技術科や総合的な学習の時間等で図表を用いて分析したり説明したりする学習活動　等

これだけはにチャレンジ

ここでは，古文を用いて，課題である「古文の特徴に注意して読み，内容を理解する問題」に関する問題例を取り上げました。

春は①**あけぼの**。②**やうやう**白くなりゆく山ぎは、すこしあかりて、紫だちたる雲の細く③**たなびきたる**。

夏は夜。月のころはさらなり、やみもなほ、蛍の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうちひかりて行くもをかし。雨など降るもをかし。

秋は夕暮れ。夕日のさして山の端いと近うなりたるに、烏の寝どころへ行くとて、三つ四つ、二つ三つなど飛び急ぐさへあはれなり。まいて雁などのつらねたるが、④**いと**小さく見ゆるは、いとをかし。日入りはてて、風の音、虫の音などはたいふべきにあらず。

冬はつとめて⑤。雪の降りたるはいふべきにもあらず、霜のいと白きも、またさらでもいと寒きに、火など急ぎおこして、炭もて渡るも、いとつきづきし。昼になりて、ぬるくゆるびもていけば、火桶の火も、白き灰がちになりてわろし。

（枕草子　第一段）

問一　①「あけぼの」・③「たなびきたる」のあとに省略されている言葉を文章中から書きぬきなさい。

問二　②「やうやう」を現代仮名づかいで書きなさい。

問三　この古文を書いた作者が、夏の風物としてあげているものを、漢字一つで順に三つ書きぬきなさい。

問四　④「いと」・⑤「つとめて」の意味を書きなさい。

問五　この古文中において、「をかし」と、ａ似た意味で使われている言葉と、ｂ反対の意味で使われている言葉を書きぬきなさい。

Ⅰ　基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用

基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用

１　ＣＲＴ結果から　　（３）小学校算数

ここでは，ＣＲＴの分析結果と児童の課題克服に向けた具体的な取組や指導について報告します。

1　概　要

○　得点率は，全て全国平均を下回っている。
○　基礎的な内容が身に付いていない。
○　問題文の意図を理解していない。
○　日常生活との関連が薄い問題がやや苦手である。

2　特徴的な問題の抽出と分析

Ｈ２２年度の実態と傾向　　全国比－2 ポイント以上の問題

例）「余りのあるわり算を活用する文章問題」
（観点：数学的な考え方　領域：数と計算・わり算　全国平均－５ポイント）

分析の結果（できなかった原因）

→除法（割り算）の計算自体はできているが，「問い」に対しての答えが正確ではない。（問題文の意図を理解していない）
→計算の方法は習得しているが，なぜそうなるのかという理解が十分でなく，活用できない。

こんな問題がやや苦手！

わり算のあまりを答えに含んで考える問題

子どもが７７人います。１つの長いすに６人ずつすわります。みんながすわるには，長いすはいくつ必要ですか。

わり算のあまりを答えに含まないで考える問題

花が３０本あります。この花を４本ずつたばにして，花たばを作ります。４本ずつの花たばは，いくつできますか。

平成２２年度ＣＲＴ結果の詳細はＰ３２

必要な基礎・基本の力

○　２位数÷１位数の除法（割り算）

○　２位数÷１位数の余りのある除法（割り算）

解答のヒント

○　みんなの答えが「１２個」と「１３個」に分かれた原因は何だろう？

○　どちらがこの問題の答えに合っているのか，話し合ってみよう！

日常の手立て

○　操作的活動の重視。
○　日常生活との関連付け。
○　単元の系統を踏まえた既習事項の活用と，繰り返しや学び直し。
○　ＴＴや少人数，習熟度別など指導形態の工夫。

算数の関連する単元

○　わり算（３年）
○　あまりのあるわり算（３年）
○　どんな計算になるのかな（３年）
○　わり算の筆算（４年）

他教科との関連

○　国語…文章の読み取り
○　社会…資料の読み取り
○　理科…実験データの読み取り

指導のポイント

①　文章問題では『問われていること』・『読み取れるもの』に線を引かせ，題意や既習事項との関連に気付かせる。
②　言葉，図，式などで，問題を解き，説明する活動に取り組ませる。
③　多様な問い方の問題に取り組ませる。
「いくついりますか。」　「答えはいくつで，余りはいくつですか。」
「いくつできますか。」　「○つでたりますか。」　など
④　答えを出した後に，その答えが妥当であるか確かめる習慣を付けさせる。

Ｐ１８の改善のポイントへ！！

Ⅰ　基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用

基礎的･基本的な知識･技能の習得と活用

1　ＣＲＴ結果から　　（４）中学校数学

ここでは，ＣＲＴの分析結果と児童の課題克服に向けた具体的な取組や指導について報告します。

1　概　要

○　全体の得点率は全国とほぼ同等になっている。
○　平成２１年度までは，全国平均との差が大きかった「数学的な見方・考え方」の観点が，全国平均に達している。
○　観点別では「数量・図形などについての知識・理解」，領域別では「数と式」の問題の通過率が低い。

2　特徴的な問題の抽出と分析

Ｈ２２年度の実態と傾向　全国比－2 ポイント以上の問題

例）「正負の数の大小」を比較する問題
（観点：知識・理解　領域：数と式，正の数・負の数　全国平均－６ポイント）

分析の結果（できなかった原因）

→数直線上に数を記す問題の通過率は全国のそれに近いことから，数量に関しての知識は定着しているものの，「数の大小」を考える際に数直線を意識した解き方をしていない。
（絶対値・変域・数の集合を考える際にも必要な力である。）
→高校生でも，同様の傾向（数の概念の理解が不十分）の生徒も多く，小中高と一貫した「数の概念形成」の指導が十分ではない。

こんな問題は得意！

数直線に実際に数を書き込む問題

数直線上に，－３．５の点Ｐを記しなさい。

こんな問題がやや苦手！

数の大小を数字だけで比較する問題

次の中で，不等号の表し方として正しくないものを選びなさい。

ア　$4.5 > -7.8$

イ　$-6 > -8$

ウ　$-0.02 < -0.2$

エ　$-\frac{1}{2} < -\frac{1}{3}$

平成２２年度ＣＲＴ結果の詳細はＰ３４

必要な基礎・基本の力

○　正負の数，分数や小数など，いろいろな数を「数直線」上に表すことができる。

○　数直線における数の大小（数の概念）を理解している。

解答のヒント

○　数直線に数を示して考えてみよう。

－８　　－４　　０　　４　　８

「どんな場合に数が大きいと言えるかな」

日常の手立て

○　操作的な活動の重視。
○　学年や単元の系統を踏まえた既習事項の活用と，繰り返しや学び直し。
○　日常生活との関連付け。
○　ＴＴや少人数，習熟度別など指導形態の工夫。
○　授業のまとめや振り返りの重視。

数学の関連する単元

○　１年生　正負の数
　　文字と式
　　比例・反比例
○　２年生　１次関数
○　３年生　関数 $y = ax^2$
　　など

他教科との関連

○　理科…実験データの読み取り
○　社会…資料考察
（大きい位の数や小数についても，数の大小を意識して感覚的にとらえられるようにする。）

指導のポイント

※　小学校の学習・高等学校の学習を踏まえ，系統性を生かした指導の充実を図る。
①　授業導入時に既習事項の確認を行い，既習の数の概念を想起させる。
②　数直線を常時活用（正負の数・数の大小，絶対値，小数や分数など，数の概念が必要な学習全て）する等操作的な活動に取り組ませる。
③　１時間の授業の振り返りの時間を設定し，学習した内容の確認をさせるとともに，一層の定着を図る。

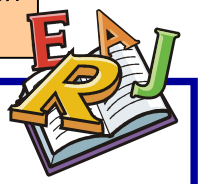
Ｐ２０の改善のポイントへ！！

Ⅰ　基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用

基礎的・基本的な知識・技能の習得と活用

１　ＣＲＴ結果から　　（５）中学校外国語（英語）

ここでは，ＣＲＴの分析結果と児童の課題克服に向けた具体的な取組や指導について報告します。



1　概　要

○　得点率は，「関心・意欲・態度」を除き，全て全国平均を上回っている。

2　特徴的な問題の抽出と分析

Ｈ２２年度の実態と傾向　　**全国比－2 ポイント以上の問題**

例）「放送質問・疑問詞」

（観点：理解　領域：聞くこと・質問などを聞き適切に応じること　全国平均－２ポイント）

こんな問題がやや苦手！

（聞き取り問題）　絵について英語で質問します。適切な答えを，絵の右側にあるア～エの中から１つ選びなさい。

エミ

ア　Ｙｅｓ，ｓｈｅ　ｄｏｅｓ．
イ　Ｎｏ，ｓｈｅ　ｄｏｅｓｎ’ｔ．
ウ　Ｓｈｅ　ｌｉｋｅｓ　ｈｅｒ　ｓｉｓｔｅｒｓ．
エ　Ｓｈｅ　ｈａｓ　ｔｗｏ　ｓｉｓｔｅｒｓ．

（　スクリプト　）

Ｈｏｗ　ｍａｎｙ　ｓｉｓｔｅｒｓ　ｄｏｅｓ　Ｅｍｉ　ｈａｖｅ　？

必要な基礎・基本の力
- ○　家族を表す言葉
- ○　人や立場を代名詞に置き換える
- ○　疑問文の作り方，答え方

関連する単元
- ○　自分・相手以外の人が主語の文
- ○　単数形と複数形
- ○　ものや人の数の尋ね方と答え方

指導のポイント

小学校の外国語活動では，問いに対して，単語で答えることも可であるが，**中学校では文で答えるように努力させる。**

平成２２年度ＣＲＴ結果の詳細はＰ３６

分析の結果（できなかった原因）

○　１年時の対話練習が１対１のみの場合，使用する人称代名詞がＩ，ｙｏｕで，それ以外の材料の深まりがない。

○　複数形の指導でも，日常の生活でなじみのあるｃａｒｓ［z］などは指導しやすいが，ｆｏｘのように最後のつづりと発音がわかりづらい単語まではなかなか指導が行きわたらない。

○　疑問文とその応答の目標文練習を３人称で意図的に行う単元がないこと。

日常からできる手立て

○　毎時間のスタート時のウォーミングアップにおいてペアで既習事項を使って対話練習をします。既習事項については，言語活動の中で繰り返し学習することで言語材料の定着を図ることができます。特に代名詞については３年間を通じてしっかり定着を図ることが大切です。

○　複数形の作り方の例外的なものについては特に取り上げて指導します。また連語については日常的な場面でよく使われるものを選択し，それらを言語活動の中で「活用すること」を通じて，定着を図ることが大切です。

語と語のつながりについて正しく文を書く指導

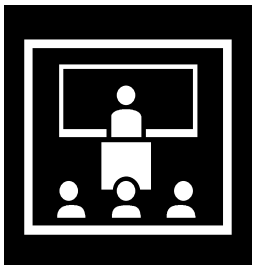
○「正しく書く」とは正しい語順や語法を用いて文を構成することを示しています。英語の文構造や語法を理解させるために，語順や修飾関係（前置修飾・後置修飾）などの特徴を日本語と対比しながら指導を行うことも有効です。

小学校外国語活動では・・・

○「外国語を通じて**①言語や文化について体験的に理解を深め，②積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り，③外国語の音声や表現に慣れ親しませながら，コミュニケーション能力の素地を養う。**」が小学校外国語活動の目標です。授業にあたって①～③を大きな柱とし，児童が自分のことを伝えたり相手のことを知ったりすること（コミュニケーション）を楽しんで行うことが出来るようにしています。５年生では，慣れ親しませることを中心に考え，机から離れて活動する機会を多くもちます。慣れてきたら，単元の導入（一単元４時間程度）で言語や文化についての内容を取り入れながら，コミュニケーション活動を発展させていきます。６年生の後半には，中学校に向けて座学を増やしていきます。外国語が言えなくても，ジェスチャーや日本語を使って，コミュニケーションをとれたことを賞賛していきます。担任はクラスルーム・イングリッシュを中心に，できる範囲で外国語を話すようにしていきます。１時間に，復習も含めて３つから５つほどの活動を組み込んで，児童が楽しみながら，外国語を話したり聞いたりできるように指導を工夫しています。

Ｐ２２・Ｐ２３の改善のポイントへ！！

2　改善のポイント　　（1）「小学校国語」



平成２２年度のＣＲＴの分析の結果，文章を読むことに課題が見られたので，４年生の説明的文章『「便利」ということ』を取り上げました。

今回取り上げた教材：事実と意見をとらえて　（教育出版　第４学年）
「便利」ということ

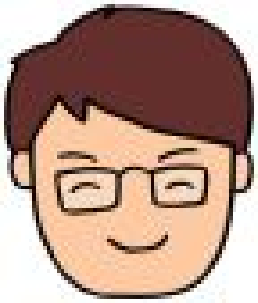
１時間の授業ここがポイント！

１時間の目標を焦点化し，評価規準も絞り込んでいます。

【本時の目標】（本時３／８時間）
便利という考え方が，時代や立場によってどのようにちがうのか，読んでまとめることができる。
【評価規準】
（関心・意欲・態度）
どんな道具がどんな立場の人を考えて作られたのかを，考えながら読もうとしている。
（読むこと）
目的に応じて，文章の要点や細かい点に注意しながら読み，文章の内容をまとめることができる。

指示語の内容理解

「それ」とは？　／「これらの道具」とは？



「それ」「これら」などの指し示す言葉は，その前後（特に少し前）をよく読むと示しているものが分かるね。指し示しているものが分かったら，あてはめて読むと確かめられるよ。

接続語の役割

課題に対するまとめが書かれた段落は？
(ﾋﾝﾄ)つなぎことばに注目してみよう！

「このように」はまとめの言葉。
すぐ前の⑦⑧の段落を指していて，まとめは⑨に書かれているね。

アイディア

教材文に出てきた接続詞を，役割ごとに分類し記録し次の教材文に生かす。
・「このように」（まとめ）
・「では」（話題転換）
・「ところが」（逆接）
など
（教育出版４年下
『アーチ橋の進歩』より）

要点の整理

時代によって，「便利」という考え方はどのようにちがうのかまとめよう。

「少し前の時代まで」と「今では」に注目してまとめればいいわね。

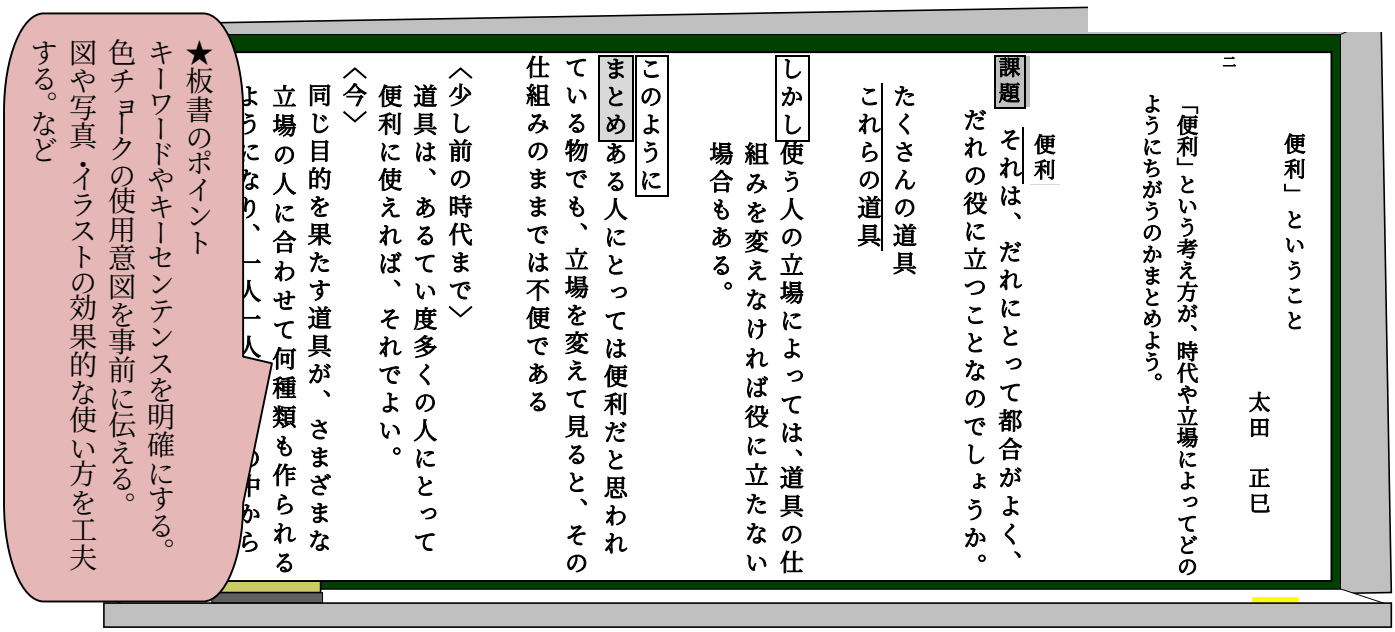
言葉の意味

「かいてき」の意味は？
国語辞典で調べてみよう。

まとめる

はさみや包丁は，どんな道具の例として取り上げられているのか，簡単にまとめてみよう。

いつも国語辞典をそばに置いて，活用させることが大事だニャン！



○単元の指導計画の例

単　元　　：　事実と意見をとらえて　（教育出版　第４学年）
教材文　　：　「便利」ということ
教材の目標：　道具や施設・設備の仕組みとそれを使う人との関係を考えて読み，「便利」ということの考え方の変化を読み取る。

単元計画

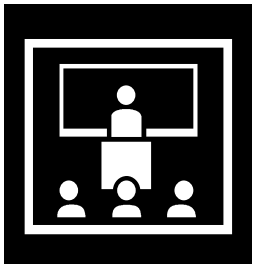
1	『「便利」ということ』を読んで，感想などを話し合う。
2	筆者が，「便利とはどういうことかを改めて考えてみよう」と思ったのはなぜか，友人の話をもとに話し合う。
3 **本時**	「便利」という考え方が，時代や立場によってどのようにちがうのかをまとめる。
4	たくさんの人が使う設備の現状について読み取る。
5	「便利」についての筆者の考えを読み取り，文章全体の構成を振り返る。
6	身のまわりの便利だと思う物や設備について話し合う。
7・8	身のまわりの物や設備の，どのような点が便利かを説明する文章を書く。

【評価規準】
（関心・意欲・態度）
目的に応じ，内容の中心や段落相互の関係を考えながら文章を読もうとしている。
（読むこと）
目的や必要に応じて，文章の要点や細かい点に注意しながら読み，文章などを引用したり要約したりしている。

日常からできる取組

- ○　指示語や接続語を「既習事項」として掲示し，意識させる。
- ○　指示語や接続語をあてはめながら，説明させる。
- ○　自作の文や教材に言葉を加えたり，置き換えたり，削ったりしながら読み深めさせる。
- ○　物語のあらすじや要点をノートにまとめさせる。
- ○　意図的に音読を取り入れ，文章の形式や特質を意識させる。
- ○　国語辞典を手元に置いて，国語の授業以外でも活用させる。
- ○　様々な文章や図書に触れるために，読書を習慣化させる。

2　改善のポイント　　（2）「中学校国語」

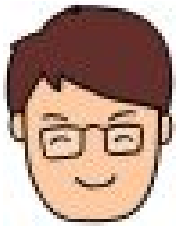


ここでは，平成２２年度 CRT で，全国平均－３ポイントとなった古典の内容理解を例に，改善のポイントに触れます。

今回取り上げた教材：物語の味わい　（教育出版　第 1 学年）
「竹取物語」

【本時の目標】
「古文の言葉の特徴を知り，内容理解に役立てよう」
【本時の評価規準】
(読むことア)「文脈の中における語句の意味を的確にとらえ，理解すること。」
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項（１）－ア－（ア）)
「文語のきまりや訓読の仕方を知り，古文や漢文を音読して，古典特有のリズムを味わいながら，古典の世界に触れること。」

１時間の授業
ここがポイント！



古典に親しむポイント

（１）　中学校３年間で学ぶ「古典」の基礎・基本をしっかりと身に付けるため，重要なことは何度も繰り返す。
（２）　古典に対する苦手意識を取り除くために，「できた」，「わかった」という達成感が得られる工夫をする。
（３）　個やグループなどの学習形態を効果的に取り入れ，思考力や表現力の向上を図る。

ワークシートで古語と現代語を対応させてみよう。

根もとが　竹が
その竹の中に、もと光る竹なむ
一本あった。　不思議に思って
一筋ありける。あやしがりて寄りて
見ると
見るに、筒の中光りたり。
三センチくらい
それを見れば、三寸ばかりなる人、
とても　かわいらしい姿で　座っている
いと　うつくしうて　ゐたり。

一つ一つの言葉を句切って見ると，意味がわかりやすくなるね。
慣れてきたら古語辞典を使いながら，自分たちで現代語に直す練習にも挑戦してみよう。

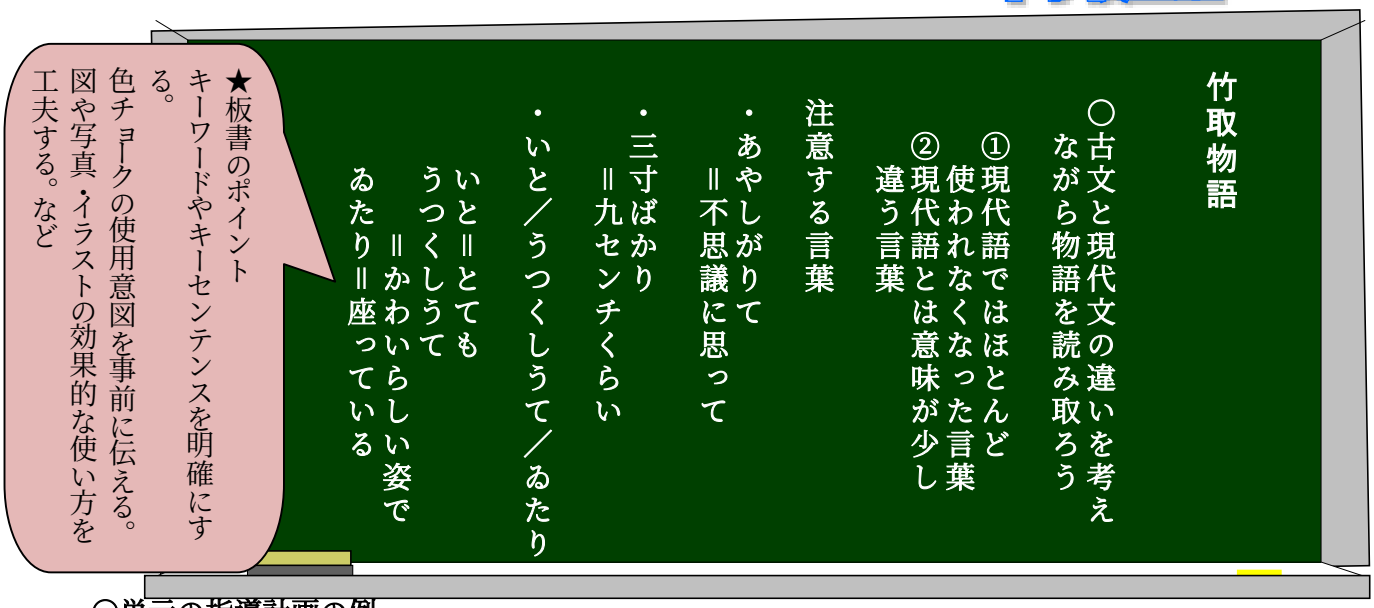
歴史的仮名遣いや，現代とは意味の違う言葉が，どうもよくわからなくなっちゃう。
だから古文は苦手なの・・。

古文の内容理解の基本は
①原文の音読（暗唱）
②「現代語では使われなくなった言葉」・「現代語とは意味が違うことば」の整理
③原文と現代語訳の対比による内容理解

それらを繰り返し学習することを通して

★古文の学習の手だて（学習方法）を身に付けさせることによって，自分たちである程度の内容理解ができる生徒を育てることを目指したい。

中学校国語



○単元の指導計画の例

単　　元　：　物語の味わい「竹取物語」　（教育出版　第１学年）
単元計画　：　５時間扱い
単元の目標：　・現代と異なる意味をもつ言葉に注意し，文の意味のおおよそを読み取る。
・古文の仮名遣いに慣れる。
・古典のおもしろさに目を向ける。

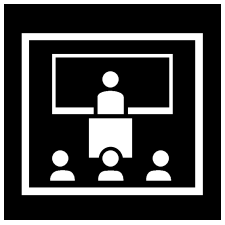
時数	学　習　の　流　れ
1	1「竹取物語」について知っていること発表し合う。 2　作品について知る。 3　古文（冒頭部分）に触れる
2 本時	1　物語の冒頭部分について，内容を理解する。 2　物語の冒頭部分を音読する。
3	1　かぐや姫の出した難題について知る。
4	1　教科書Ｐ６４の原文を読み，内容を理解する。 2　原文を音読する。
5	1　教科書Ｐ６５を読み、内容を理解する。 2　「竹取物語」のおもしろさを考える。 3　各自でノートにまとめる。

【評価規準】
読むことア「文脈の中における語句の意味を的確にとらえ，理解すること。」
読むことウ「場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み，内容の理解に役立てること。」
読むことエ「文章の構成や展開，表現の特徴について，自分の考えをもつこと。」
書くことウ「伝えたい事実や事柄について，自分の考えや気持ちを根拠を明確にして書くこと。」
伝統的な言語文化（１）－ア－（ア）
「文語のきまりや訓読の仕方を知り，古文や漢文を音読して，古典特有のリズムを味わいながら，古典の世界に触れること。」
伝統的な言語文化（１）－ア－（イ）
「古典には様々な種類の作品があることを知ること。」

日常からできる取組

○　古語辞典を用意させ，現代の言葉との違いを比較させる。
○　図書館を利用し，朝読書で古典に親しませる。
○　歴史との関連から，作品が書かれた時代への興味をもたせる。

２　改善のポイント　　（３）「小学校算数」



平成２２年度のＣＲＴの分析の結果，数学的な活動を通して，理解を深めるとともに，数学的な考え方を養う例を取り上げました。

今回取り上げた内容：あまりのある割り算　第３学年

本時の目標　余りのとらえ方について理解を深める。【知識・理解】

評価規準　問題場面に応じた商や余りの処理の仕方を理解している。

【ここがポイント！①】必要な情報を読み取るために

子どもが７７人います。１つの長いすに６人ずつすわります。みんなすわるには，長いすはいくつ必要ですか。

このような問題場面では，計算で求めた数値がそのまま題意に即した答えにならない。

そこで

計算結果を形式的にそのまま答えにしてしまう傾向がある。

問題を読み，**除法の問題であることを理解して立式できるようにする。**(７７÷６)

何を求める問題であるか確認するために，**『問われていること』・『読み取れるもの（問題文からわかること』**など，キーワードに線を引かせ,しっかりと題意をとらえさせるようにする。

【ここがポイント！②】情報を明らかにするために

必要な情報を読み取る

そして

７７÷６=１２余り５となるが，答えは商の「１２」ではなく，余りも１つ分として，商の「１２」に１をたして「１３」としなければならない。計算した結果がそのまま答えになるのではなく，商に１を足さなければならない。

読み取った情報を明らかにする

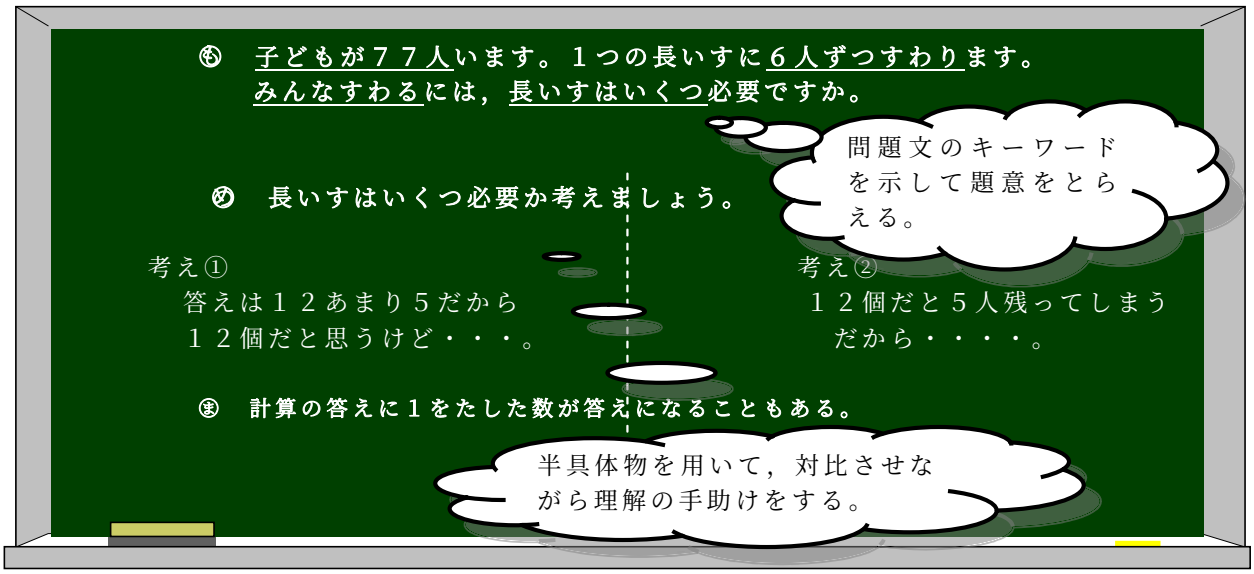
※　絵・図・具体物などを用いて表現方法を工夫することで表現力を高めることにもつながる。

そのためには・・・・・・・

・半具体物を６個ずつに分けたり，図をかいて６ずつまるで囲んだりするなどの操作活動で確認し，長いすの数が１２個では，５人残ってしまうことを視覚的に明らかにする。

・児童の理解の実態によっては，問題場面を疑似体験させる。

・**２通りの答えが出たら，「求めた答えは，問題に対して適切か」という視点で答えを吟味していくことが大切である。**



指導計画・評価計画

時	◎目標	○学習活動	評価規準
①あまりのある割り算【６時間】			
1	◎除数と商が１位数の除法で，わりきれない場合の仕方を理解する。	○１４÷３の答えの見つけ方を考える。	図割り切れない場合の除法の計算の仕方について，既習れる場合を基に考などを用いて説明
②あまりを考える問題【２時間】			
1	◎余りのとらえ方について理解を深める。	○題意をとらえ，７７÷６と立式し，計算して答えを求める。 ○計算では１２余り５だが，答えが１２としてよいか話し合う。 ○答えは，商より１になることをまとめる。	図問題場面に応じた，商や余りの処理の仕方を理解している。
2	◎	意をとらえ えを求める。 計算では１２余り５だが，商をそのまま としてよいか，それとも商に＋１とすべきか 話し合う。	
③まとめ【２時間】			
1	◎学習内容を適用して問題を解決する。	○	
2	◎学習内容の定着を確認し，理解を確実にする。	○「しあげの	

第２小単元は，余りのある除法の余りのとらえ方についての理解を深めるために，２つの段階に分けて学習する。

前時を受けて余りの処理の仕方を考える場面だが形式的に理解している児童は商＋１にしてしまう。

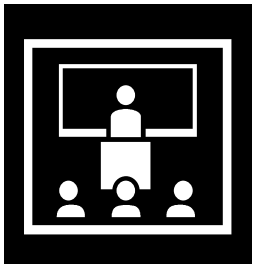
次の時間に学習する，余りを切り捨てて計算結果をそのまま答えにする問題の学習と合わせて「何を求める問題なのか」「それぞれの数値は何を意味しているのか」など，問題の構造をとらえなければいけない。

【ここがポイント！③】知識・技能の習得と活用
余りも１つとして考え，答え=商＋１
余りを切り捨てて考え，答え=商
　となる問題に取り組むためには，余りの処理に着目することが問題解決に大きな意味をもつ。
学習のまとめでは，多様な形式の問題に取り組ませることで問題の意味をとらえられるようにする。

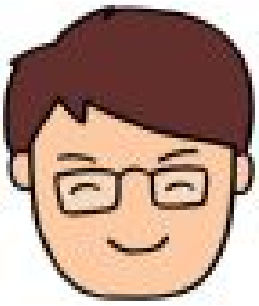
日常からできる取組

- **文章で示された問題を図や絵で表す活動をさせる。**
- **解いた問題を言葉で説明する。**
- **概念や量感・質感を身に付けさせるため，数直線や具体物等を使用させる。**

2　改善のポイント　　（4）「中学校数学」



１時間の授業
ここがポイント！



平成２２年度のＣＲＴの分析の結果から，数の概念を育てること，系統性をおさえた指導の重要性について取り上げました。

今回取り上げた内容：正負の数　第１学年

１章　正負の数　**１節　正負の数**　②数の大小

■学習内容

○数の大小関係を，不等号を使って表すこと。

【例】次の三つの数の大小を不等号をつかって表しなさい。

$$-1.3,\ -\frac{7}{5},\ -\frac{10}{3}$$

■評価規準

数学への関心・意欲・態度
◇負の数をふくむ数直線や大小関係に関心をもち，小学校での学習内容に関連付けて，それらを考えようとしている。

数学的な見方や考え方
◇絶対値をもとに，正の数，負の数の大小について考えることができる。

数学的な技能
◇正負の数の大小関係を，不等号を用いて表すことができる。

数量や図形についての知識・理解
◇正の数，負の数の大小関係や，不等号，絶対値の意味を理解している。

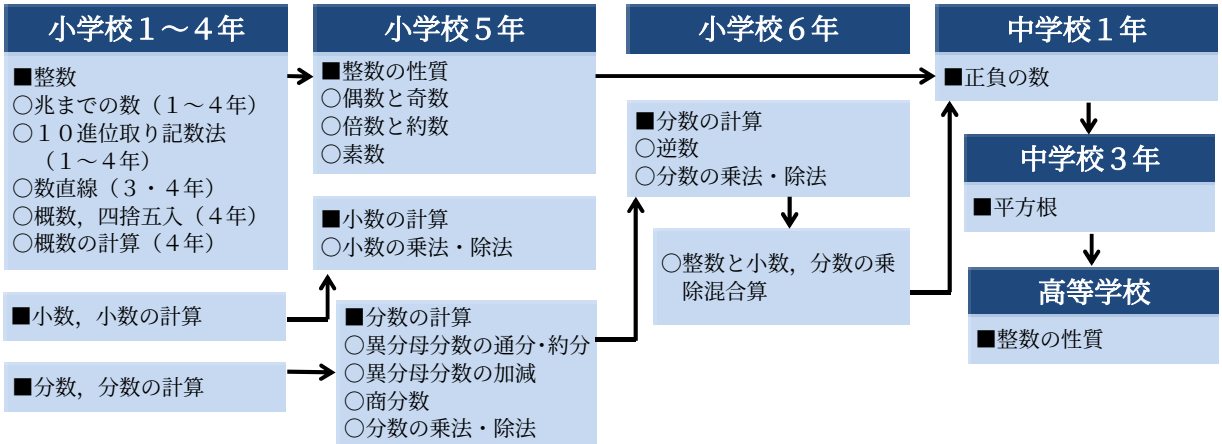
1　数学的な活動を取り入れる

数の大小関係は，演算に適合するように定義された順序である。小学校で学習した数直線を『負の方向』へ拡張し，更に正の数の範囲におけるルールを負の数まで適用する必要がある。加えて，本単元で初めて学習する『不等号』の用語や記号など，基礎的知識や技能を積み重ねなければ確実な定着は図ることができない。生徒が数直線を使用し，より良い見方や考え方を発見したり，組み合わせたりするなど，数学的な活動を行う場面を用意し，理解を深めさせることが必要である。

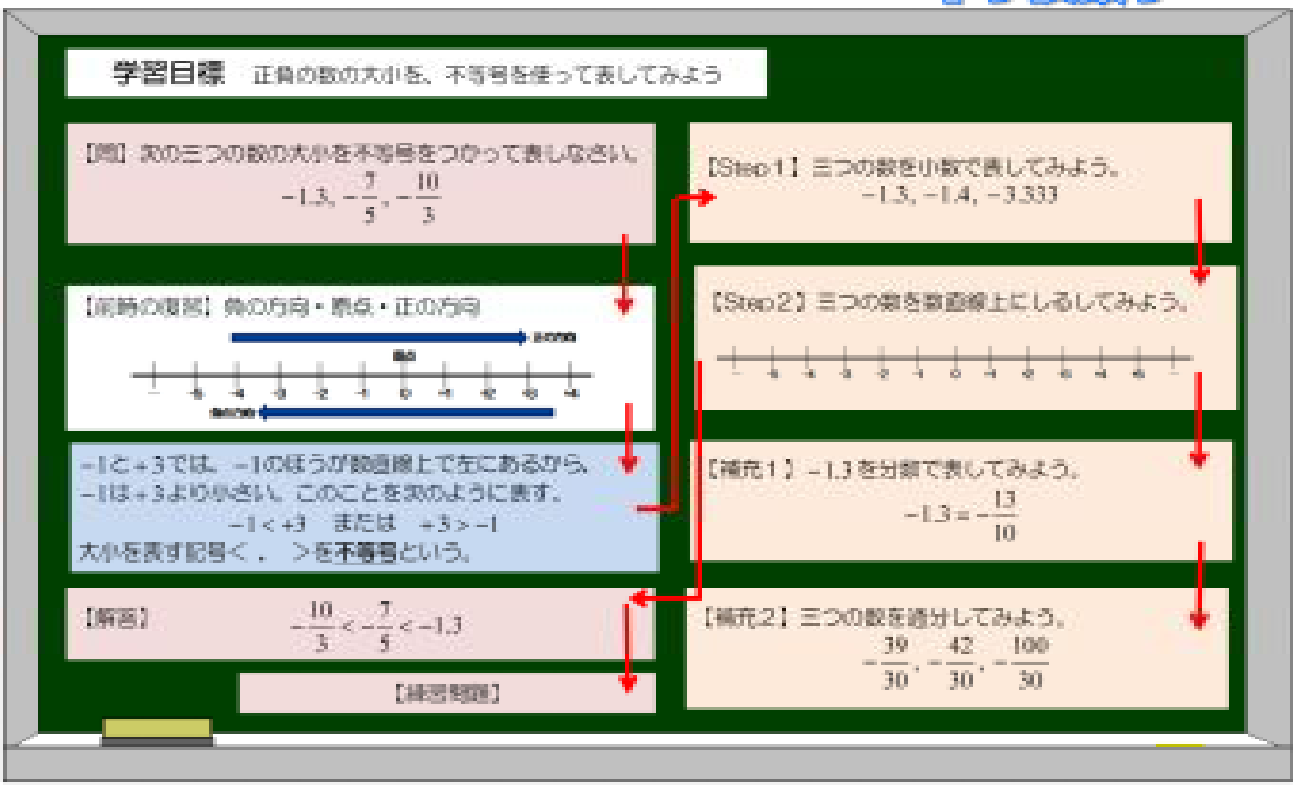
＋

2　小・中・高の系統性

①にもある通り，中学校での学習内容は，小学校での学習を拡張し，深めたりすることが多い。更に高等学校では，専門的要素が増えるため，小・中の内容の確実な定着がより求められる。生徒がどの段階でつまずいているのか，どの内容の理解が不十分であるのかを把握する上でも，小・中・高の内容の系統性をしっかりとおさえ，きめ細やかな指導を行っていくことが大切である。



中学校数学



指導計画・評価計画

中学校数学科第１学年「正負の数」単元の指導計画例

１　単元の目標

正の数と負の数について、具体的な場面での活動を通して理解し、その四則の計算ができるようにする。

２　単元の評価規準

ア【数学への関心・意欲・態度】
　正の数、負の数を利用することに関心をもち、具体的なことがらの変化や状況を正の数、負の数で表したり、処理したりしようとしている。

イ【数学的な見方や考え方】
　具体的なことがらの変化や状況を正の数、負の数で表し、考えることができる。

ウ【数学的な技能】
　正の数、負の数を利用して、具体的なことがらを表したり、処理したりすることができる。

エ【数量や図形についての知識・理解】
　正の数、負の数を使うと、具体的なことがらについて、変化や状況を分かりやすく表したり、処理したりできることを理解している。

３　単元の指導計画（２６時間扱い）

時数	目　標	主な学習活動	評価規準
5	正負の数について、数直線上の数の位置とそれらの数の大小関係を、正の数の場合と同様に考えることができる。	○基準とのちがいを、正負の数を使って表すこと。 ○絶対値をもとに数の大小を考えること。	イ
8	加法と減法の混じった式を、代数和の考えで計算できる。	○代数和の考えで２数の減法を計算すること。 ○加法と減法の混じった式を計算すること。	ウ
11	正負の数の四則の混じった式や分配法則を用いる計算に関心をもち、小学校における既習内容と関連付けて考えようとしている。	○四則の混じった式を計算すること。 ○分配法則を利用して計算を効率的に行うこと。	ア
2	正の数、負の数を使うと、具体的なことがらについて、変化や状況を分かりやすく表したり、処理したりできることを理解している。	○正負の数の計算を利用して、身近な問題を解決すること。	エ

■小学校や中学校での定着度が低い内容については繰り返し学び直すことが大切です。その場合、本時の目標と照らし合わせ計算の手順や考え方、数直線の利用、具体的な問題に対しては図の提示など、効果的な支援を行います。
■本時のまとめでは、確認テストなどを実施し確実な定着を図ります。テストから生徒のつまずきを明らかにし、家庭学習などを利用して補充的な学習を推進していきます。

日常からできる取組

【確認テスト】次の三つの数の大小を不等号をつかって表しなさい。
$-\frac{8}{3}, -2.1, -\frac{13}{5}$
今日の定着…　A　・　B　・　C

○生徒１人ひとりの定着度をチェックするために１時間のまとめに『確認テスト』に取り組ませる。
（『確認テスト』は、本時の主となる内容に絞って設定し、短時間で行えるものが有効です。）
○生徒が自分の学習を確認し、家庭学習へのアプローチとするための「自己評価」に取り組ませる。

2　改善のポイント　（5）「中学校外国語（英語）」

平成２２年度のＣＲＴの分析結果では,三人称や複数形の学習に課題が見られると考えられるので，それらの指導の改善及び，小学校外国語活動と外国語科の円滑な接続により，意欲的に学習に取り組むことができるような内容を取り上げました。

New Horizon English Course Book 1 まとめと練習　3　三人称単数現在形
＜本時の目標＞　自分と相手以外の人（もの）についての文を作ったり，応答したりする。
＜評価規準＞　○　意欲的にペアワークやチャンツに取り組んでいる。　【関心・意欲・態度】
○　主語が自分と相手以外の時の動詞の使い方を身に付けている。　【知識】

1時間の授業
ここがポイント！

★既習事項を使ってウォームアップ★

三人称の一般動詞の確認の前に一人称の文を口頭練習する。小学校との連携の視点から，チャンツで繰り返し言わせるのも効果的と考える。ペアワークでは，疑問文とその答えをチャンツの掛け合いで行わせる。その際，答えも文で言わせる。

★「既習事項」から新言語材料の導入・活用へ★

自分と相手以外が主語の場合，動詞にｓ，ｅｓがつくが，have のように形そのものが変化するものもある。ここでは Unit６の Part３で登場した has を使い，疑問詞を含んだ文を作らせ，反復練習をさせる。

・・・1時間の授業の構成・・・

◇Greeting
英語で挨拶を行い，日付・曜日天候等を会話形式で行う。（スペルも確認）

◇Warm-up
前時の復習を行う。（ペアワークや JTE の後追いでリズムよく）

◇Practice
本時で扱う表現を確認し，リピートさせる。（リズムを重視）

◇Introduction
新言語事項の音による導入を行う。（既習表現との違いに気付かせる。）

◇Practice(Speaking)
変形させた文のチャンツを行う。

◇Practice(Writing)
「やってみよう」に取り組ませる。

◇Closing
本時で学習した内容を確認する。

◇Warm-up　・・・　前の Unit６で学習した「私は～を持っている」の表現の復習。〔チャンツ：聞く・話す〕

◇Practice　・・・　“I have ~.”の疑問文，答え，否定文のドリルをペアで交互にやり取りする。〔チャンツ：聞く・話す〕

◇Introduction・・　本時で扱う材料の導入。”Lisa has ~.”の音による導入。〔聞く・話す〕

◇Practice　・・・　“Does Lisa ~ ?”の文や”Yes, she does.” “She doesn't have~.” “How many dogs does she have ?” “She has ~.”の文を練習する。〔チャンツ：聞く・話す〕

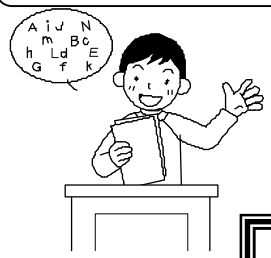
◇Practice　・・・　やってみよう。

❶（　　）から適切な語を選んで，次の文を完成しましょう。
(1) Shin (play, plays)tennis.
(2) Emi and Judy (like, likes) math.
(3) Her husband Koji (study, studies) English.
(4) I (come, comes) to school every day.

❷［　　］の指示に従って次の文にかえましょう。
(1) He has a guitar.[否定文に]
(2) Ms. Green teaches English.[疑問文に]
(3) She speaks Chinese. [否定文に]
(4) Mike listens to music every day. [疑問文に]

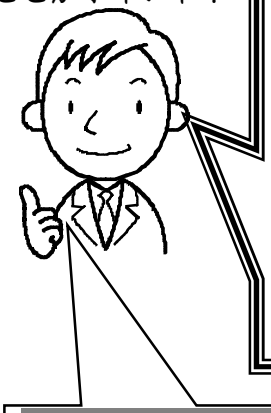
○　**「意欲」を持続させるために，活動に対しての評価（「ねぎらう言葉がけ」等）を積極的に行う。**
○　**内容に合わせて，ペア学習や，グループ学習のバリエーションを多数用意し，使い分ける。**

2　改善のポイント　（6）「小学校外国語活動」



英語ノート２　Lesson５　「道案内をしよう」Unit３
＜本時の目標＞方向や動作を指示する英語を使って，相手に目的地を伝える。
＜評価規準＞　方向や動きを指示する英語を使って，相手に目的場所を伝える。
【外国語の基本的な表現に慣れ親しむ】

1 時間の授業
ここがポイント！



★「話す」「聞く」「会話する」の活動を組み込む★

１時間の中で Warm-up，Practice，Activity が主な活動となる。特に，Activity が本時のメインとなるので，それに合わせて「話す」「聞く」「会話する」の活動をバランスよく組み込むようにする。（単元の中では「知る」活動も組み込むようにする。）

★日本語訳は控えめにする★

教師もなるべく英語を話そうと努力することで，児童の良いモデルとなる。本時で扱う表現は，教師もできる限り英語で表現する。（ルール説明などは日本語でもよい）

★学年によって，活動形態を考慮する★

中学校との接続を意識し，第６学年では，座ったままできる Activity を増やす等，学習形態を工夫する。

・・・1時間の授業の構成・・・

◇Greeting

Activity の内容によっては，ここで指導者が一人ひとりと会話する場面を設定する。

◇Warm-up

前時の復習をかねて，ゲームで気持ちを高める。

◇Practice

本時で扱う表現を確認し，チャンツなどでリズムよく練習する。

◇Activity

内容に合わせて１～２つ行う。

◇Closing

ふり返りカードを活用したり，感想を発表させたりして本時の活動をふり返る。

◇Greeting

終わりの挨拶を行う。

◇Warm-up…前時までの方向を指示する表現の復習
建物の表現の復習〔チャンツ：聞く・話す〕

◇Practice…本時で扱う表現“ Where is ～？ ”。
〔チャンツ：聞く・話す〕

◇Activity１…英語ノートを使って，ペアで道案内する。次の活動と同じ表現を使う。
〔ゲーム：会話する〕

◇Activity２…〔ゲーム：会話する〕
・教室を街に見立てて，グループで道案内をする。
「会話する」というコミュニケーションを目的とした活動にするための，必然性をゲームの方法やルールとして設定する。
〔準備〕
・建物絵カード
・机を合わせて教室がいくつかのブロックになるようにする。
・教室の地図
・各ブロックに絵カードを裏返して置く。（必然性の設定）
〔ゲームの設定〕
①４～６人ずつのグループをつくる。
②グループの中から一人，道案内される人を決める。
③残りのメンバーが地図を持つ。一人は目的場所のカードを引く。
④一人が“ Where is ～？ ”と尋ね，残りのメンバーは一緒に進まずにその場で案内する。
⑤目的場所に着いたらカードを上げて確認する。

○　「コミュニケーションへの意欲」を持続させるために，活動に対しての肯定的な評価（英語で「ほめる」・「ねぎらう」等）を積極的に行う。
○　学級の実態や内容に合わせて，グループ編成のバリエーションや活動場所を使い分ける。
○　活動の対象（人）や活動の場（他の教科等）を意図的に徐々に広げていく。

2　改善のポイント　（７）「学力向上プロポーザル授業から」

「４年生国語科」授業の提案

授業で目指した三つの柱

①　子どもが興味・関心を持続させ，主体的に学習に取り組むための工夫

○導入では
- 学習に興味・関心をもたせる。　→ 実験ＶＴＲの視聴
- 学習の見通しをもたせる。　→ オリエンテーション的な時間の設定
- 目的意識をもたせる。　→ 『４年２組もの知り事典』の作成

○「読むこと」領域の学習では
- 『４年２組もの知り事典』作成のために → 説明文の書き方を学ぶ

②　学んだことが生きることを実感できる単元構想の工夫
- 教材文を段落毎に読み取り，内容や筆者の考えを読み深める活動から脱却する。
- 「説明文を書く」ために読むこと教材を学ぶことを重点とし，指導計画を作成する。
- 他の文章を活用し，教材で学んだことを生かし，定着を図る。

③　子どもの「知りたい」「伝えたい」を大切にした言語活動の位置付け

単元名　「まとまりやつながりに気をつける」
題材名　「花を見つける手がかり」
単元の目標
「段落と段落とのつながりを明らかにして，資料を使って伝えたいことを整理したり，文章を書いたりする。」

（１）本時の目標
○表現の仕方に着目したり，細かい点に注意したりしながら文章を読もうとしている。（関心・意欲・態度）
○表現の仕方や細かい点に注意しながら文章を読み，要約する。（読むこと）

（２）本時の展開
①本時に位置付けた言語活動
②活用した言語活動例　ウ　記録

１単元１領域の指導を意識し，目標の焦点化を行っている。

動

学　習　活　動　（形態）	教師のはたらきかけ	評価規準（評価方法） 評価を受けた指導
○前時の学習を想起する。（全体） ○本時の学習課題を知る。（全体）	・本時の学習の流れを説明し，見通しをもたせる。	

学習課題
「お気に入りの説明文」を分かりやすく要約し，友達に伝えよう。

ポイント1
単元全体の中で，本時がどのような位置付けなのか，本時のねらいは何なのかを児童と共有する。
※　単元計画表（掲示物）を利用する。

○各自が取り組んだ説明文の要約を見せ合い，表現の仕方や細かい点に注意して，補足や修正を行う。
（グループ）

○それぞれの要約をつなげて，全体を読み段落相互のつながりが適切であるか，聞き手に内容が伝わるかを確認する。
（グループ）

・説明文を読んでいない相手に内容が伝わるよう，要点や段落同士のつながりに気を付けたり，“説明の技”を活用したりして補足や修正をするよう助言する。

【関心・意欲・態度】
表現の仕方や細かい点に注意しながら読もうとしている。
（態度）

【読む能力】
表現の仕方や細かい点に注意しながら読み，説明文の表現の特徴をまとめている。
（ノート・発言）

ポイント2
グループ活動においては，話合いのポイントを明示（板書）し，ポイントにそって相互にアドバイスし合えるようにする。
※ 机間支援では，事前に指導者が作成したヒントカードを与える等，各グループに応じた支援を行う。

○グループでまとめた「お気に入りの説明文」の内容の要約と，文章中で見付けた“説明のわざ”を発表する。
（１グループが発表）
（全体）

・聞き手が要約した文章を読んで確認できるよう，実物投影機を活用する。

◎十分満足な状況への手立て
文章の要点に注意させるとともに，全体のつながりを考えて補足や修正をするよう促す。

○発表された説明文の内容と“説明のわざ”について感想を述べたり，アドバイスをしたりしながら，要約のよさを確認する。
（全体）

・聞く側には，要約を聞いて説明文の内容が伝わったか，自分の「お気に入りの説明文」の“説明のわざ”との共通点や相違点はどこかに着目させる。

△努力を要する状況への手立て
“説明の技”のワークシートを確認し，補足や修正に生かすよう促す。

まとめ
分かりやすい要約にするためには，“説明のわざ”を使うとよい。
どの説明文にも“説明のわざ”が使われている。

○学習を振り返り，自分が書く説明文に学びを生かすことを確認する。（全体）

・他のグループの発表に意欲をもたせる。

ポイント3
本時の「ねらい」と「まとめ」が学習者の思考の流れに沿うよう配慮する。
※ ”説明のわざ”が様々な説明文でも用いられており，それを生かすことが「わかりやすい説明」につながっていることを共有する。

2　改善のポイント　（７）「学力向上プロポーザル授業から」

「５年生算数科」授業の提案

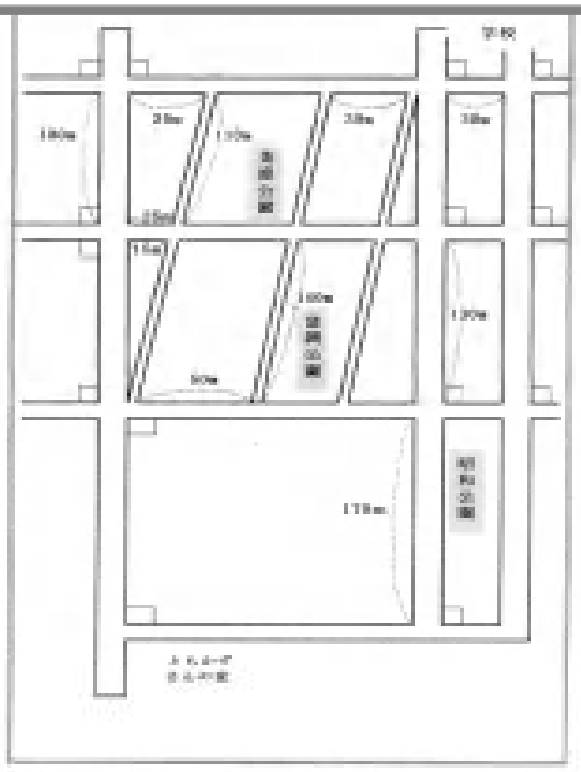
つまずきや試行錯誤を経て，理解に至る学習

① 課題に対し,見通し（構想）を持って取り組み,新たな知を得る学習
→ 問題解決的な学習の重視
② 情報を分析・評価・論述する学習
→ 過多な情報から必要な情報を取り出し,活用する学習の重視
③ 概念・法則・意図などを解釈,説明したり,互いの考えを伝え合い,考えを発展させる学習
→ 様々な形式を用いて,議論を深め,より高次の解決策に至る学習の重視

単元名　**面積の求め方を考えよう　～四角形と三角形の面積～**

本時目標　必要な情報を読み取り，適切に取り出すとともに，既習の公式を活用して，平行四辺形と長方形の面積の求め方を自分なりに考えている。

本時の展開

主な学習活動（学習形態）	評価規準	教師の活動	評価を受けた指導
問　題： ともかずさんの家の近くに３つの公園があります。昭和公園と富岡公園と美原公園では，どの公園が一番広いですか。  本時のめあて：広さの比べ方を考えよう。		ポイント１ 多くの情報を盛込んだ問題を提示することで，多様な考えを引き出すことができる。 ポイント２ 見通しをもたせるための方法として，解決する内容や解決するための方法を確認し，見通しをもつよう促すことが大切になる。 ポイント３ 互いの考えを出し合うことで，よりよい解決策を求めようとする。 ・広さの比較結果の予想 昭和公園・　昭和＆美原公園 美原公園・　美原＆富岡公園 富岡公園・　富岡＆昭和公園 どれも同じ	☆十分満足できる

○既習事項を基に，どのような方法で比較すればよいか考える。
（　自力解決：個別活動　）

○どんな既習事項を活用して解くつもりか発表する。
（　自力解決：集団活動　）

長方形や平行四辺形の面積の求め方を使えばいいんじゃないかな。

書いてある数字がたくさんあるけどどれを使えばいいのかな。

○数式の形で自分の考えをまとめる。
（　自力解決：個別活動　）

【数学的な考え方】

○長方形と平行四辺形の公式をもとに立式し，自分なりに考えをまとめている。（発表・ノート）

○一番広い公園と，そう考えた根拠について説明する。
（　集団解決：集団活動　）

昭和公園30×170
美原公園５0×110
富岡公園38×130

昭和公園30×170
美原公園50×100
富岡公園38×130

昭和公園30×17
美原公園５0×10
富岡公園38×14

使う数値によって，正解が変わってくるぞ。

○他者の意見を聞き，自分の意見と比較し，質問したり，説明を補足したりする。（集団解決：集団活動）

昭和公園３0×170
美原公園５0×110
富岡公園38×140

○考えをまとめる。
（　集団解決：集団活動　）

昭和公園
たて×横　30　×　170

美原公園
底辺×高さ
50 × 100・50 × 110

富岡公園
底辺×高さ
38 × 130・38

○類似問題に取り組む
（　自力解決：個別活動　）

○本時の授業を振り返り「わかったこと・気付いたこと・考えたこと」等をノートに書く。

◎類似問題を提示する。

◎本時のめあてに沿った振り返りができるよう，助言する。（Ｔ１）

本時のまとめ：・土地の広さは，面積の公式を用いて比較できる。
・平行四辺形の高さが，図形の外にある場合でも，公式を用いて面積を計算することができる。

ポイント
既習内容を組み合わせることで，より高度な問題に対しても解決に向かってアプローチできるようになる。

ポイント
話し合いでは，自分の考えを説明するとともに他の考えと対比しながら説明し合うことで互いの考えが深まるように促すことが大切である。

ポイント
必要な情報を読み取り，読み取った情報を明らかにするために言葉や数式，図を関連付けながら根拠をもって説明することで表現力を高めることができる。

ポイント
説明することにより，言語活動を促し，より数学的な（算数的）思考力を育むことができる。

ポイント
互いの考えや意見を伝え合うことによって，集団で解決へ向かうことができる。

○指導計画

基礎的な知識や技能の活用を図ることで解決できる「情報過多」「身近な事例を扱った」問題を単元の中で取り組めるよう指導計画を工夫する。

	1	2	3（本時）	4	5
単元の指導計画	平行四辺形の面積の求め方を考えることができる。 【平行四辺形の面積の求め方を考え，既習の長方形や既習の求積可能な形に帰着させて考える活動】	平行四辺形の面積の公式の意味を理解することができる。 【平行四辺形の面積の求め方を公式にまとめる活動】	平行四辺形の面積の公式を適用して生活に関連する問題を考える。 【平行四辺形を利用した活用問題に取り組む活動】	いろいろな平行四辺形の面積を公式を適用して求めることができる。 【いろいろな平行四辺形の面積を公式を用いて求める活動】	三角形の面積の求め方を考えることができる。 【三角形の面積の求め方を考え，既習の求積可能な形に変形させて考える活動】

５　アドバイザーからの提言

学力向上のためのポイント

（１）　学校の改善は「組織」で

・学校の改善は，組織的に取り組んでいくことが大切である。一部の学年の課題として見るのではなく，組織として取り組むことで，成果が積み重ねられ，すべての子どもに還っていくことになる。
・各学校の課題は様々であるが「よい実践はどこの学校でもやってみる」という考え方が必要であり，自校の傾向をしっかりと分析するのはもちろん，学力向上の取組状況において,全国と比較して何が不足しているのかを分析することが大切である。
・組織で課題を把握し，共通理解を経て目標を設定するが，その際には「実行性と実効性」というキーワードを大切にしたい。「実際にできるのか,そして効果があるのか」という視点で見てみると,「高すぎる目標」や「評価が難しい目標」が多いように感じる。「わかりやすく」「取り組みやすい」目標設定，そして「評価が明確な」取組など，組織的に行うからこそ「実行性と実効性を大切」にして改善を図ることが求められる。
・函館市では「アプローチ」と呼ばれる指針が示されており，各学校で課題分析や目標設定をする場合，積極的に参考にするべきであると考える。

（２）　「本当の分析」からの授業改善

・テスト結果の分析において，点数ばかりに目を向けてはいないだろうか。大切なことは，子どもたちが，なぜ，その問題ができなかったのか，どこでつまずいているのかを分析し，どのような指導が不足していたのかを検証することである。教科として子どもたちにどんな力量を付けてあげることが必要なのかという視点で分析を行っていくことが大切である。
・特定の問題がなぜできなかったか。どんな指導が不足していたかについて着目してほしい。「問題に対する経験不足」が原因として取り上げられることが多いが，その際，何の経験を増やしてやることが指導改善なのかを検証することが大切である。
・できなかった問題の分析はもとより，できのよかった問題は,「なぜ，できていたのか」を検証し，指導のよかった面を見付け出し，授業改善に生かしていくことも大切である。

（３）　連携や体系的な指導を生かして

・連携においては，小中連携はもちろんのこと，小学校においては学年で完結する指導ではなく，指導内容がスパイラルにつながっていくよう，体系的な指導が大切である。
・小，中，高の先生が一堂に会して，分析を行うことも有効である。他校種の課題を確認するとともに，どんな指導方法を行っているかを交流することが重要である。また，この指導内容は，どのような系統性をもって指導していくことが望ましいのかを小中高が連携して論議することを推進していただきたい。
・さらに，同じ学校種においても「成果を上げている学校の取組」を参考にしたり，分析したりするなどの交流が有効である。

（４）　授業改善の視点について

・授業改善の方策は各学校の課題に応じて多様な方法が考えられる。函館市では、すでに「わかる授業づくりに向けて～学習指導のポイント１０～」や毎年「学習状況調査報告書」を発行しており，授業づくりの基礎・基本を示している。多数示されている方策を全て同時に行うことは難しいと考えられるので，優先順位を決めて，取り組む方策を絞り込んで，全校体制で行っていくことが効果的であると考える。
・今年度のアプローチ（函館市の学校教育推進の指針）の視点は「授業公開」と「連携」である。授業改善のためには，「授業公開」や様々な「連携」は大変に有効であり，継続的な取組が大切である。

平成２３年度函館市学力向上プロジェクト推進委員会アドバイザー

松田　賢治　先生

（北海道教育大学函館校人間地域科学課程人間発達専攻教育学准教授）

昭和６０年に北海道教育大学函館校を卒業後，中学校教員として勤務
平成１０年　北海道教育庁日高教育局指導主事
平成１２年　十勝教育局指導主事
平成１５年　上川教育局指導主事
平成１８年　渡島教育局指導主事
平成１９年　北海道教育庁本庁　学校安全・健康課教職員課主査
　　学校安全・健康課主査
平成２１年　北海道教育庁学校教育局義務教育課学力向上推進グループ主査
平成２３年より現職
全道各地の学力の状況や，学力向上の取組について造詣が深く，函館市学力向上プロジェクト推進委員会のアドバイザーとして函館市の学力向上のためにご尽力をいただいている。

Ⅱ　学校組織・指導体制の改善

学校組織・指導体制の改善

学力向上には，教職員の共通理解と学校の組織的・計画的な取組が必要です。

1　研究モデル校の実践（1）「函館市立磨光小学校」

研究主題

「自ら学び豊かに表現できる子を育てる」
～確かな学力の育成を通して～

磨光小学校では，全国学力・学習状況調査や CRT などから，児童の学力の実態を客観的なデータを基に分析し，課題を明確にした上で１年目は学習常規の徹底に組織的に取り組んだ。２年目の今年度は以下の取組を行った。

研究内容１
学習事項を明確にし、既習事項を活用させる授業展開の工夫

①教材研究の徹底を図る。
②学習内容の焦点化を図る。
③「この時間に何を学ぶのか」を児童に明確に伝える。
④学習の「見通し」をもたせ，児童の主体的な「学び取り」の姿勢を育てる。

研究内容２
基礎的・基本的事項の確実な定着を図るための工夫

①既習事項の各教室への掲示を行う。
②学習内容の重要事項のキーワード化し，児童に提示する。
③基礎・基本の定着を促すワークシートの全児童への配付により，重要事項を繰り返し学習する姿勢を養う。

研究内容３
自らの考えを自分の言葉で表現する言語活動の工夫

①学習常規の整備と徹底を行う。
②筋道を立てて考えたり，根拠を明らかにして説明する，話し合うなどの活動の充実を図る。

成果：
児童の姿：全国学力・学習状況調査において，B 問題の得点率に改善が見られた。
授業において，主体的に学ぶ姿勢が見られつつある。
教員の姿：主体的に研究を進め，毎時間の学習のねらいを焦点化するよう努めており，重要事項のキーワード化を意識して進めている。

Ⅱ　学校組織・指導体制の改善

学校組織・指導体制の改善

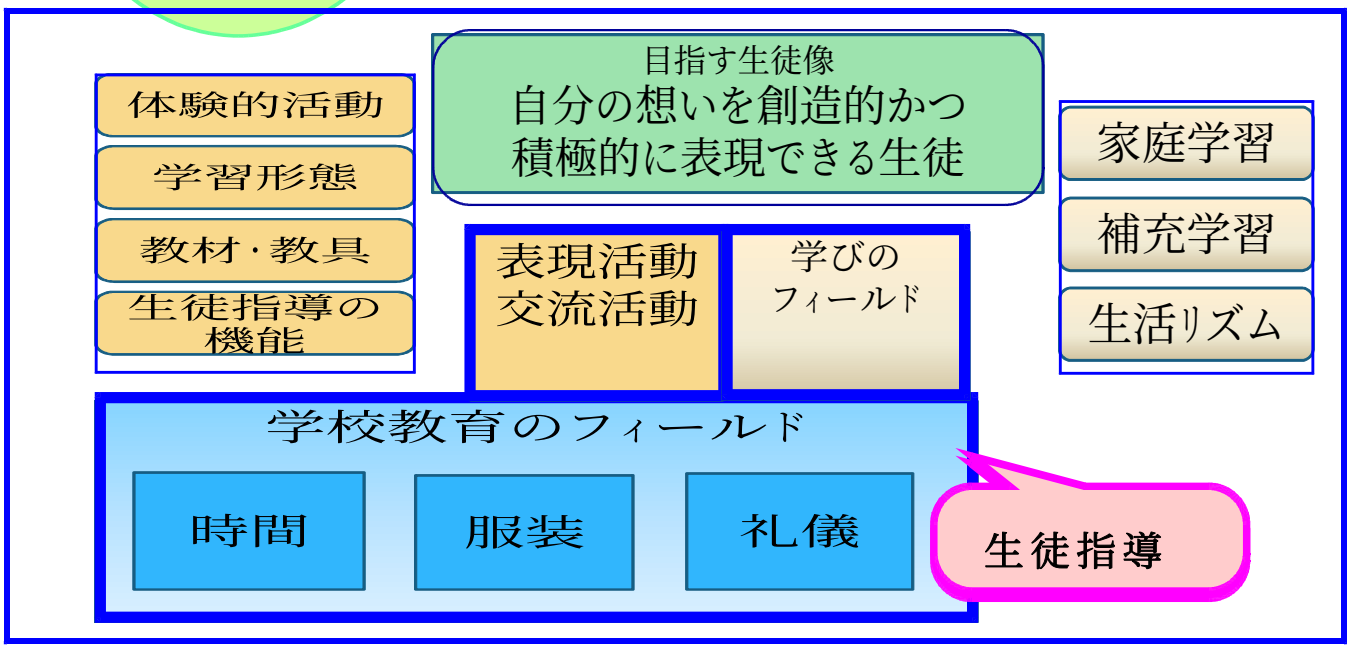
学力向上には，教職員の共通理解と学校の組織的・計画的な取組が必要です。

1　研究モデル校の実践（2）「函館市立赤川中学校」

研究主題

「確かな学びの力を身につけるための指導方法の工夫」

～多様な表現活動や交流活動を取り入れた授業改善～



研究内容１

多様な表現活動や交流活動を位置付けた学習展開の工夫

①学習形態の工夫や，体験活動の充実を図る。
②生徒指導の機能を生かした授業を構築する。

研究内容２

多様な学びのフィールドの設定による確かな学びの育成

①朝読書や，放課後・長期休業中のステップアップ学習など，学びのフィールドを広げる取組を推進する。
②生徒の自治活動を中心とした生活環境づくりを進める。

成果：

生徒の姿：落ち着いた環境の中で，「学びに向かう姿勢」が確立し，学習に粘り強く取り組む姿勢が見られるようになった。
生徒同士が授業の中で活発な意見交流を行うようになった。

教員の姿：授業の中に「学び合う」場面を取り入れる意識が高まった。

Ⅱ　学校組織・指導体制の改善

学校組織・指導体制の改善

学力向上には，教職員の共通理解と学校の組織的・計画的な取組が必要です。

1　研究モデル校の実践（3）「函館市立鍛神小学校」

研究主題

「わかる喜びを実感し，考えを表現できる子どもの育成」

～算数科の指導の工夫を通して～

目指す子ども像

学ぶことの楽しさやわかる喜びを実感しながら，自分の考えを表現できる子ども

研究内容

視点１　数学的な考え方を育てるために

①既習事項の確認ができる課題設定の工夫
②互いに高め合い磨き合う話し合いの工夫
③個の特性などに応じる学習形態の工夫

研究内容

視点２　基礎的・基本的な知識・技能を定着させるために

①算数的な活動を通して，実感を伴った経験の工夫
②適用問題などの形成的評価を行い，指導に生かす工夫
③繰り返し（スパイラル）による指導の工夫

研究内容

視点３　学習環境を充実させ，学習習慣を定着させるために

①望ましい学習活動が展開できる教室環境の工夫
②発達段階に応じた学習ルール，家庭との連携による学習習慣づくりの工夫
③自ら学ぶ意欲を高め，考えを確かにするノート指導の工夫

成果：

児童の姿：自ら考え，課題を追求する姿が見られるようになった。
基礎的・基本的な内容の定着が徐々に進みつつある。

教員の姿：授業改善の視点の共有がなされ，適用問題を授業の終末に位置付けるなど，共同歩調で改善を進めている。

Ⅱ　学校組織・指導体制の改善

学校組織・指導体制の改善

学力向上には，教職員の共通理解と学校の組織的・計画的な取組が必要です。

1　研究モデル校の実践（4）「函館市立深堀中学校」

研究主題

「やる気がひかる生徒の育成」
～わかる喜びやできた感動を共有できる授業の実践～

研究内容1
土台となる人間関係づくり

①「他を認める風土」が培われるような，生徒同士，生徒と教師の人間関係づくり
②Q-Uの実施
③学年内での生徒・学級の実態についての情報共有，計画的・組織的なはたらきかけ

研究内容2
学び合い活動を取り入れた授業の実践

①教科の特性に応じた授業形態の工夫や学び合い学習の実施
②学習意欲を喚起させる教材の開発・授業の構築

研究内容3
家庭学習の習慣化に向けた取組

①家庭学習に対する共通認識と課題の洗い出し
②家庭学習の実態把握と実態をもとにした手立て

研究内容4
個に応じた評価方法

①「ほめる」を基本にした，個に応じた評価，個に返す評価
②学習意欲の向上につながる評価のあり方

成果：
生徒の姿：生徒が意欲をもって学び合いを進める姿が見られた。
生徒自身が，自分の生活を振り返る機会が増えた。
教員の姿：生徒の人間関係や家庭での学習の様子，指導のポイントについての精度の高い情報の共有がなされた。
授業改善を目指す機運の高まりが見られた。

平成２３年度　函館市学習状況調査実施報告書【原稿執筆・編集者一覧】

【函館市学力向上プロジェクト推進委員会】

推進委員長

函館市立千代ヶ岱小学校	校長	花　田　　譲	（函館市小学校長会）

副委員長

函館市立銭亀沢中学校	教頭	大　谷　眞　司	（函館市中学校教頭会）

委員

函館市立八幡小学校	教諭	丸　山　敏　儀	（函館市小学校国語教育研究会）
函館市立的場中学校	教諭	中　田　和　子	（函館市中学校国語教育研究会）
函館市立鍛神小学校	教諭	佐々木　秀　哲	（函館市算数教育研究会）
函館市立戸倉中学校	教諭	中　山　　央	（函館市数学教育研究会）
函館市立赤川中学校	教諭	小　川　史　浩	（函館市英語教育研究会）
函館市立青柳小学校	教諭	新　沼　誠　子	（函館市南北海道教育センター研究員）
函館市立港小学校	教諭	坪　谷　正　樹	（函館市南北海道教育センター研究員）
函館市立駒場小学校	教諭	熊　谷　英　代	（函館市南北海道教育センター研究員）
函館市立鱒川中学校	教諭	清　水　修　子	（函館市南北海道教育センター研究員）
函館市立本通中学校	教諭	中　島　宏　幸	（函館市南北海道教育センター研究員）
函館市立的場中学校	教諭	林　　修　司	（函館市南北海道教育センター研究員）
市立函館高等学校	教諭	佐　藤　和　範	（国語科担当）
市立函館高等学校	教諭	星　野　朋　己	（数学科担当）
市立函館高等学校	教諭	齋　　圭治朗	（英語科担当）

推進アドバイザー

北海道教育大学函館校	准教授	松　田　賢　治	

【協力】

函館市立磨光小学校	教諭	阿　部　　智	（函館市学力向上研究モデル校研究担当）
函館市立赤川中学校	教諭※	小　川　史　浩	（函館市学力向上研究モデル校研究担当）
函館市立鍛神小学校	教諭※	佐々木　秀　哲	（函館市学力向上研究モデル校研究担当）
函館市立深堀中学校	教諭	小　川　雅　範	（函館市学力向上研究モデル校研究担当）
函館市立八幡小学校	教諭※	丸　山　敏　儀	（学力向上プロポーザル授業授業者）
函館市立昭和小学校	教諭	藤　原　友　和	（学力向上プルポーザル授業授業者）

【表紙作品】

函館市立凌雲中学校	教頭	仲　井　靖　典	

敬称略・※は兼務

平成２３年度 函館市学習状況調査実施報告書
「確かな一歩の証として」

発行者　　函館市教育委員会

函館市東雲町４番１３号
電話（0138）21-3557

発　行　　平成２４年　３月